

錦川支流における  
オオサンショウウオの産卵時期

久志本 鉄 平

「山口県の自然」第76号（2016年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

## 錦川支流におけるオオサンショウウオの産卵時期

久志本 鉄平<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

オオサンショウウオ (*Andrias japonicus*) は両生綱有尾目オオサンショウウオ科に属する大型の両生類で日本では岐阜以西の本州と四国及び九州北部に分布する (小原 1978)。本種の産卵場所は河川水が流入しているか (鈴木 1974) 伏流水がその奥から湧き出ているといった、岸辺の横穴や岩盤の隙間などが産卵巣穴となる (小原 1985)。オオサンショウウオの産卵行動はヌシが占有する巣にメスが産卵に訪れると、周囲にいたスニーカーオスが産卵巣穴に入り集団で授精が行われることが確認されている。また、ヌシと呼ばれるオスは巣穴を占有し産卵後も留まる (小原 1985)。オオサンショウウオは巣穴の中でこういった繁殖活動を行うため観察することが困難である。これまでの全国のオオサンショウウオの産卵日は、産卵観察や卵の発生の状態より 8月19日~9月16日の期間内と報告されている (田口 2009)。山口県岩国市の宇佐川の産卵時期は10~12月である可能性も示唆されている (村田 2009) が、これまでに山口県では産卵時期についての記録は見当たらない。今回、2011年~2015年の期間に錦川支流宇佐川及び深谷川において本種の卵及び卵塊を確認したので報告する。

### 2. 観察記録

山口県岩国市宇佐郷 (錦川支流宇佐川及び深谷川) にて卵の一部及び卵塊を確認できた観察地を図1に示す。

2011年9月15日に錦川支流宇佐川の宇佐川堰堤下流 (St.1) にて魚類調査時に流下した卵の一部と思われる断片を確認 (図2 A)、また2013年9月11日に錦川支流深谷川 (St.3) にて魚類調査時にオオサンショウウオの巣穴と考えられる岩の下に卵塊を確認 (図2 B) した。なお、その際ヌシと思われる個体は目視できなかった。また、下流では上流から流下したと思われる卵を確認した (図2 C)。さらに、2014年9月1日に巣穴と考えられるSt.3を調査した結果、卵塊及びヌシを確認した (図2 D)。2015年8月29日、9月5日、9月15日にSt.3の調査を行ったが2015年8月25日の豪雨 (気象庁の山口県広瀬のデータより159.5mm) の影響と考えられる巣穴周辺の植物や砂の流出により、巣の開口部が大きく

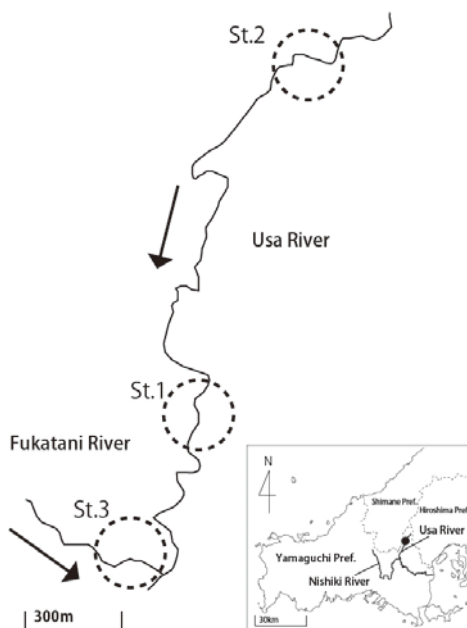


図1 卵の一部及び卵塊を確認した地点

1) KUSHIMOTO, Tepppei 下関市立しものせき水族館 〒750-0036 下関市あるかぼーと6-1

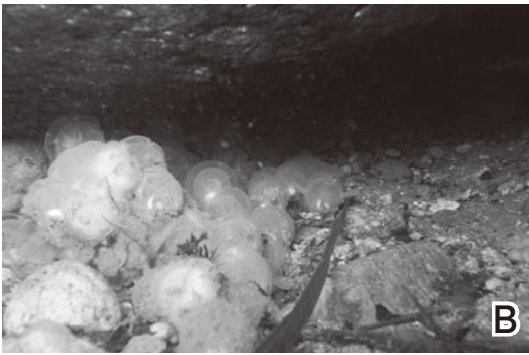


図2 卵の一部及び卵塊 (A:流下した卵の一部,B・E:巣穴内の卵塊,C:流下した卵,D:ヌシと卵塊)

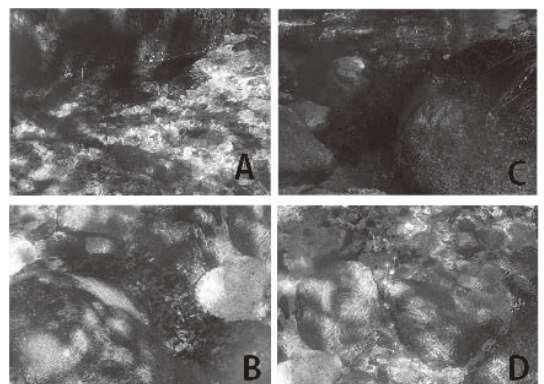
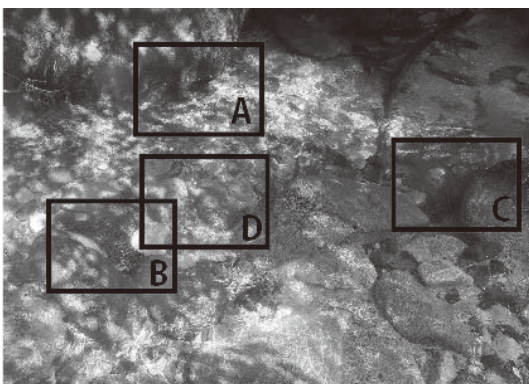


図3 巣穴周辺に集まる3個体(A,B,C)の成体及び流下する卵(D)

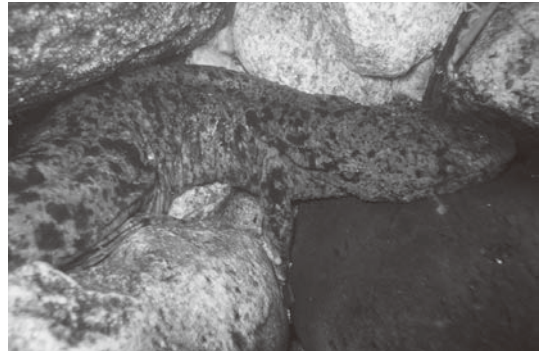
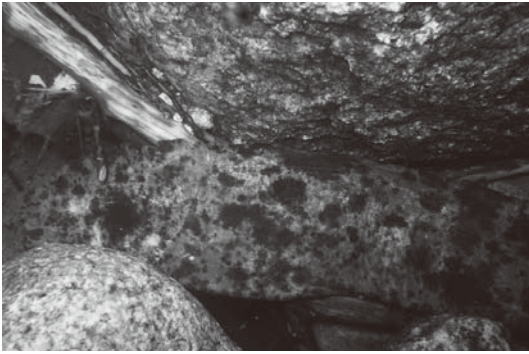


図4 体表にできた傷(A:尾部,B:体側)

なっており、ヌシ及び卵塊は確認できなかった。2015年8月29日に錦川支流宇佐川の宇佐川堰堤上流(St.2)にて卵塊(図2E)及び巣穴周辺に集まった成体3個体及び巣穴から流れ出す卵を確認した(図3A, 3B, 3C, 3D)。オオサンショウウオは複数の個体で産卵することが知られているため(小原1985)、今回観察した例は産卵直後、あるいは次の産卵のために集まった個体だと考えられる。また、巣の周りにいた1個体(図3Cの個体)は体側及び尾部に傷があった(図4A, 4B)。飼育下ではオオサンショウウオの産卵の際、ヌシガメスの尾部を噛む行動が観察されている(伊東,私信)ことから、尾部に傷を

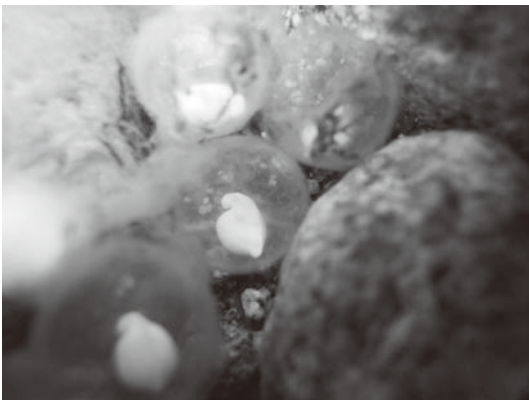


図5 発生の進んだ卵塊

持った個体は産卵に参加したメスである可能性も考えられる。なお、2015年9月15日にSt.2の卵塊の発生状況を確認すると、尾芽胚初期～横倒した尾芽胚まで発生が進んでいた(図5)。

これまでの報告(広島市安佐動物公園,1988)と比較すると産卵後16～17日目程度の発生段階であった。

このように発生が進んでいたことから8月下旬の産卵は正常な産卵だと考えられ、錦川支流においても8月下旬から9月初旬には産卵が始まるものと推測された。

### 3. 引用文献

- 広島市安佐動物公園(1988)オオサンショウウオ.調査記録集第1号.37pp.広島市動物園協会.
- 伊東明洋(2015)私信.
- 村田満(2009)私案,“山口県におけるオオサンショウウオの保護管理指針”.山口生物31:6-26.
- 小原二郎(1978)オオサンショウウオ,第2回自然環境保全基礎調査,動物分布調査報告書(両生類・爬虫類),全国版,41-45pp.
- 小原二郎(1985)大山椒魚.どうぶつ社,東京,236pp.
- 鈴木信義(1974)オオサンショウウオの産卵-その1-すづくり3(6):4-6.広島市安佐動物公園.
- 田口勇輝(2009)オオサンショウウオの季節的な移動-流水に棲む両生類による繁殖移動の可能性-.日本生態学会誌59:117-128.